

2014年1月16日

〈プレスリリース〉

「草の根・人間の安全保障無償資金協力」

サンパウロ州イタクワセツーパー市

「イタクワセツーパー障害者施設用電動式介護ベッド機材整備計画」

に対する草の根・人間の安全保障無償資金協力の贈与契約署名式について

在サンパウロ日本国総領事館

1. 去る1月16日（木）午後2時より当館において、希望の家福祉協会に対する我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力の贈与契約署名式を上村恵ジャイロ理事長と当館福嶋教輝総領事の間で行いました。
 1. 出席者の挨拶：
 - a. 福嶋教輝総領事：「1999年より実施されている「草の根・人間の安全保障無償資金協力」による協力は、当館にとって109番目の協力になる。希望の家福祉協会は1970年に設立され、知的・身体障害者の保護、教育及び医療的サポートを行っており素晴らしい活動をされている。今回の協力は上村理事長及び各理事の普段からの生徒に対する心遣いが現れた成果である。この協力を通じて日本とブラジル日系社会の繋がりがより一層深まる機会になれば嬉しく思う。」と祝辞を述べました。
 - b. 上村恵ジャイロ理事長：「私達は、日本国政府に協力をしていただいたことに敬意を表するとともに、喜びと感謝の気持ちでいっぱいである。日本政府の資金協力により購入する電動式介護ベッドのおかげで22人の身体障害者の日常生活の改善を実施することができることに感謝申し上げる。このような事例は我々の励みになり、身体障害者らを支援するやりがいを感じる。あらためて、この協力を頂いたことに日本政府へ感謝の気持ちと敬意を表したい。」と謝辞を述べました。
2. 案件概要：希望の家福祉協会は1970年に設立され、現在は73名の知的・身体障害者の保護、教育及び医療的サポートを行っています。当初日系人の心身障害児童の保護を目的に運営を開始しましたが、その後右児童の成長に合わせて大人の収容者も増え、また非日系ブラジル人の収容も開始し、現在に至っています。障害者が使用しているベッドは寄付された木製のベッドが主ですが、破損も顕著であることから鉄製の介護ベッドに変える必要がありました。また、ベッドから障害者が転落する等の事故があったほか、自分で起き上がることが困難な障害者には昇降機能の付いた電動式介護ベッドが必要となっていました。今回の協力は、同団体の障害

者に対し、電動式介護ベッド一式（22台）の整備に53、469米ドルを限度に無償資金供与を行うもので、障害者の快適で安全な療養を可能にするものです。

（お問合せ先） 在サンパウロ日本国総領事館経済班
（0 x x 1 1） 3 2 5 4 - 0 1 0 0



福嶋総領事（左）と上村理事長（右から2人目）



希望の家福祉協会関係者